

人権学習展開例

主 題 名 被差別部落の歴史（中世・近世・近代の差別のありよう）

教 材 名 「被差別部落の歴史」

人権学習の視点 個別的な視点「同和問題」

主題・教材について 近年、被差別部落の歴史についての研究が深まり、教科書記述も大きく変化してきた。ここでは、中世から近代までの差別のありようについて、当時の人々の差別意識を踏まえて理解を深め、同和問題を自らの生き方の問題として捉え、解決する態度を育てたい。

ね ら い

被差別部落の歴史を学ぶことを通して、同和問題について正しく理解し、差別を見抜き、差別を許さない判断ができるとともに、同和問題を自らの生き方の問題として捉え、解決する態度を培う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○同和問題を解決するために被差別部落の歴史を学ぶことの重要性に気付かせる。		○同和問題を解決するために被差別部落の歴史を学ぶことの重要性に気付く。	○同和問題に対する無理解や偏見がその解決の弊害となっていることを確認し、被差別部落の歴史を学ぶ必要性を感じさせる。	
展 開	中世の差別とはどのようなものだったのだろうか				
	○又四郎や世阿弥が差別を受けていたことに気付かせる。 ○「ケガレ」の意味と、その「ケガレ」を「キヨメ」の役割と、その結果生じる意識について考えさせる。 ○忌避・排除の差別意識が社会に広がったことを理解させる。	一斉	○庭造りや芸能で活躍していた人が差別されていたことに気付く。 ○中世には様々な被差別民がいたこと、彼らの職能が社会にとって大変重要であったことを理解する。 ○彼らの職能が「ケガレ」にかかわりがあり、次第に畏敬の念が薄まり忌避・排除する差別意識へと変化していったことを理解する。	○「鹿苑日録」「後愚昧記」について指導資料をもとに説明する。 ○「ケガレ」「キヨメ」についての中世における考え方は、現在のものとは違うこと、そのことで人を排除・差別するようなことはおかしいことをおさえる。 ○中世の差別の特徴をおさえる。	教材「中世における差別のありよう」 指導資料 資料2・3
	近世の差別とはどのようなものだったのだろうか				
	○近世には身分が制度化されたこと、被差別部落の人の生活について理解させる。 ○「別器」・「別火」・「別食」・「別婚」という考え方について理解させる。 ○医学への功績とともに、社会的評価の違いを考えさせる。		○身分の固定化、仕事や役負担、人口増加を支える経済力があつたことを理解するとともに、貧しかったから差別されたのではないことを理解する。 ○民衆の意識として排除の差別があつたことを理解する。 ○医学への功績とともに、社会的評価の違いを考える。	○身分が制度として固定化されていたこと（中世との違い）をおさえる。 ○仕事と役負担、人口の増加については被差別部落の経済力についても説明する。貧しいから差別されたのではない。 ○「下」「低い」という見方ではなく、「外」「排除」という民衆の見方を明らかにする。 ○「蘭学事始」について指導資料をもとに説明する。	教材「近世における差別のありよう」 指導資料 資料6・7

<ul style="list-style-type: none"> ○江戸時代後半になって、風俗取締令が出てくることの意味を考えさせる。 ○差別政策に対する被差別部落の抵抗を、渋染一揆によって示す。 ○近世の差別のありようをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身分秩序が崩壊してきたこととともに、政治的・制度的な差別の厳しさを理解する。 ○差別法令に対し、百姓と同等の扱いと差別的なお触れの撤回を求めて立ちあがったことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「えたの虎松の祖父」と杉田玄白達との社会的評価の違いについて考える。 ○「風俗取締令」「長州藩御仕置帳」について指導資料をもとに説明する。 ○近世の差別の特徴をおさえる。 	<p>指導資料資料8・9・10</p> <p>指導資料資料11</p>
<p>近代の差別とはどのようなものだったのだろうか</p>			
<p>展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制度としての被差別身分の廃止の意義について理解させる。 ○二人の名主（庄屋）の話を読み、当時の人々の認識について考える。 ○当時の人々の認識が、解放令反対一揆につながることを理解させる。 ○被差別部落の貧窮化が、特に「松方デフレ政策」以降顕著になることを理解させる。 ○水平社設立の過程と意義を理解させる。 ○これまでの取組により部落差別の解消に向けて大きく前進したことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○被差別身分に対する差別の政治的・制度的根拠がなくなったことを理解する。 ○二人の庄屋の認識から差別をすることの醜さ、差別をなくし新しい人間関係を築こうとする姿勢に気付く ○差別意識のもたらす悲劇を理解する。 ○貧困化による新たな偏見が加わり社会的に排除するようになる（社会問題としての部落問題）ことを理解する。 ○水平社以降の多くの人の取組により、部落差別の解消に向けて大きく前進してきたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二人の名主（庄屋）の認識から、生徒自身の生き方を考えるように指導する。 ○部落問題が、社会の仕組の問題（部落の貧困化、社会的に排除する差別）であることをおさえる。 ○被差別部落の人々自身が差別撤廃を求める運動が起こしたことにより、部落問題は大きな社会問題として認識されるようになったことを理解させる。 ○同和対策審議会答申にある、同和問題の解決は国の責務であるとともにすべての人の課題であることをおさえる。 	<p>教材「近代における差別のありよう」指導資料資料13・14</p> <p>指導資料資料15</p>
<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの歴史と差別の実態を学ぶことで、差別を見抜き、差別を許さない社会をみんなで築いていくことの大切さを理解させる。 ○2時間の学習を振り返って、学んだこと、印象に残ったことをまとめさせる。 	<p>個別</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの歴史と差別の実態を学ぶことで、差別を見抜き、差別を許さない社会をみんなで築いていくことの大切さを理解する。 ○2時間の学習を振り返って、学んだこと、印象に残ったことをまとめる。 		

評価

被差別部落の歴史を学ぶことを通して、同和問題について正しく理解し、差別を見抜き、差別を許さない判断ができるとともに、同和問題を自らの生き方の問題として捉え、解決する態度を培えたか。